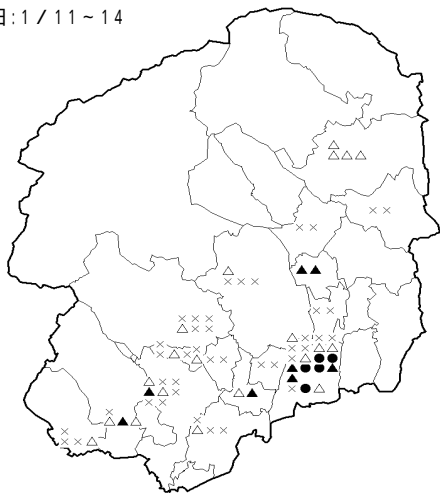


4) いちご病害虫情報

いちご病害虫情報第8号(1月)		平成23年1月21日 栃木県農業環境指導センター									
		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	7	0	4	3	4	33	12	0	0	総調査ほ場数: 74か所 総調査株数: 1,850株 (調査株数: 1ほ場25株)
	平均値	9.5	0.0	5.4	4.1	5.4	44.6	16.2	0.0	0.0	
	平年値	3.4	4.4	12.0	2.8	3.9	29.2	57.6	0.0	0.0	
	(平均値/平年値)×100	279.4	0.0	45.0	146.4	138.5	152.7	28.1	-	-	
株率	発生株数	1	0	3	4	5	289	37	0	0	今月の病害虫発生状況 ・ハダニ類は先月より発生ほ場率、発生株率とも増えてい ます。一部で株あたり密度の高いほ場も見られます。 ・うどんこ病は平年に比べやや少ない発生ですが、果実に発 生が見られるほ場もあります。
	平均値	0.1	0.0	0.2	0.2	0.3	15.6	2.0	0.0	0.0	
	平年値	0.2	0.2	0.7	0.1	0.4	8.4	12.4	0.0	0.0	
	(平均値/平年値)×100	50.0	0.0	28.6	200.0	75.0	185.7	16.1	-	-	
概 評		平年並	少	やや少	やや多	平年並	やや多	やや少	やや少	少	

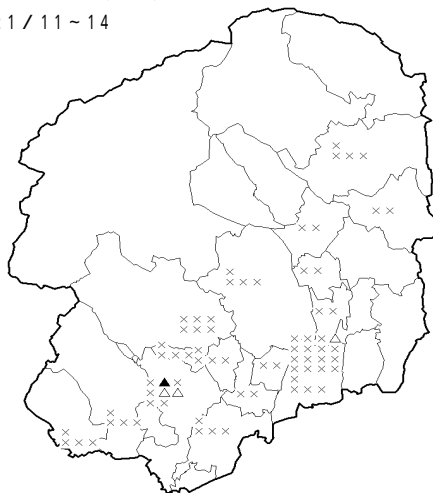
ハダニ類発生状況(本ほ)

調査日: 1/11~14



うどんこ病発生状況(本ほ)

調査日: 1/11~14



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	×			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	×			

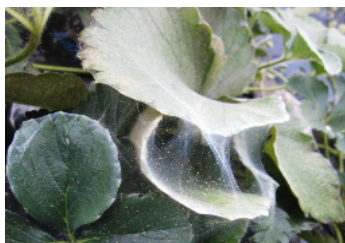
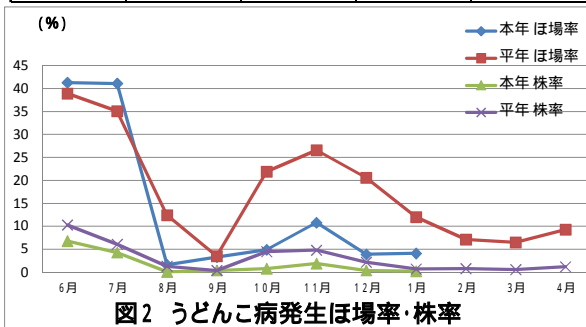
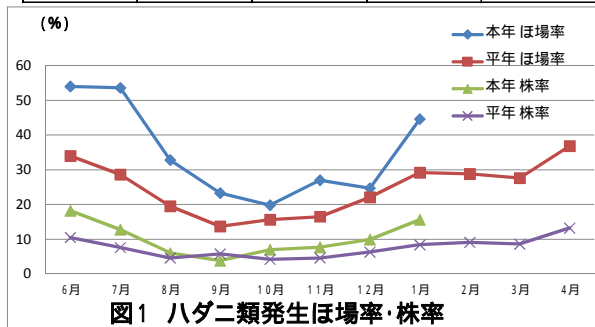


写真
上: ハダニ多発
によるクモの巣
状

右: 葉裏に密集
するハダニ



今月の技術情報(技術指導班) (1月)

・本年1月は好天の日が多く降水量が少ないため、今のところ病害の発生は少ないようです。今後とも下葉かきなどの管理作業、ハウスの適正な温度管理や換気等により、発生を抑制することが重要です。また、ハウスの入り口等の隙間はできるだけ無くすようにして気密性を高め、燃料消費を抑制し、保温効率が良くなるよう努めましょう。また、温湿度管理を良くすることは、受粉用ミツバチの群を長く保つことにもつながります。

・害虫ではハダニ類の発生が増加しています。今後は春にかけて増加する時期になりますので、早めに防除を行いましょう。

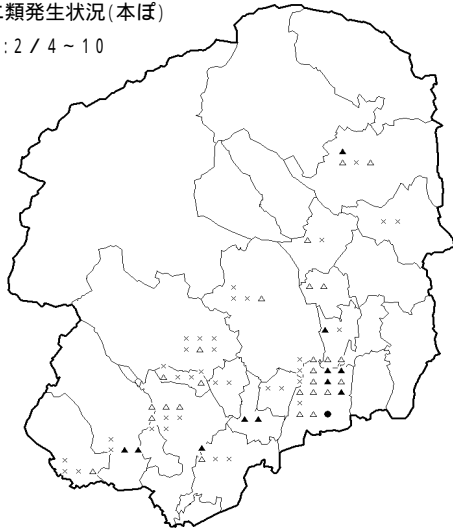
いちご病害虫情報第9号(2月)

平成23年2月17日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	0	6	1	0	7	38	13	1	0	総調査ほ場数：74か所 総調査株数：1,850株 (調査株数：1ほ場25株) 今月の病害虫発生状況
	平均値	0.0	8.1	1.4	0.0	9.5	51.4	17.6	1.4	0.0	
	平年値	4.0	7.2	6.9	2.5	3.4	32.9	54.1	0.3	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	112.5	20.3	0.0	279.4	156.2	32.5	466.7	-	
	発生程度	少	平年並	やや少	少	多	やや多	やや少	多	少	
株率	発生株数	0	2	1	0	18	271	28	3	0	・ハダニは引き続き発生の多いほ場が見られます。アブラムシの発生が多いほ場が見られ、がくや花托にも寄生が確認されました(写真)。 ・株率は少なめですが、灰色かび病が発生し始めたほ場がありました。 ・うどんこ病の発生はやや少ないです。
	平均値	0.0	0.1	0.1	0.0	1.0	14.6	1.5	0.2	0.0	
	平年値	0.2	0.4	0.6	0.0	0.5	10.9	13.9	0.1	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	25.0	16.7	-	200.0	133.9	10.8	200.0	-	
	発生程度	少	やや少	少	少	多	平年並	少	多	少	
概 評		少	平年並	やや少	少	多	やや多	やや少	平年並	少	

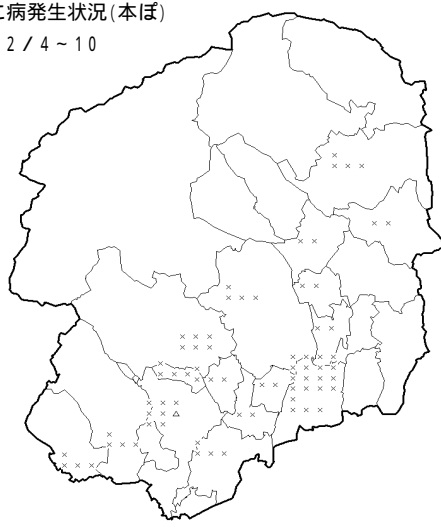
ハダニ類発生状況(本ほ)

調査日：2/4~10



うどんこ病発生状況(本ほ)

調査日：2/4~10



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	×			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	×			

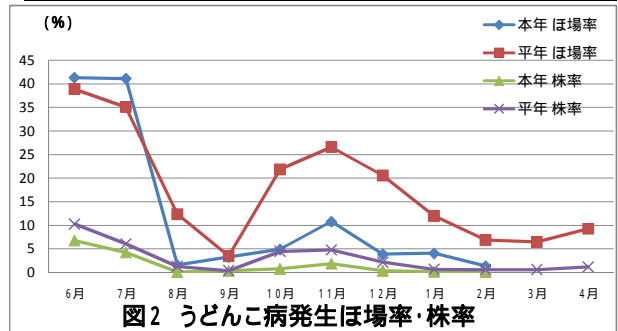
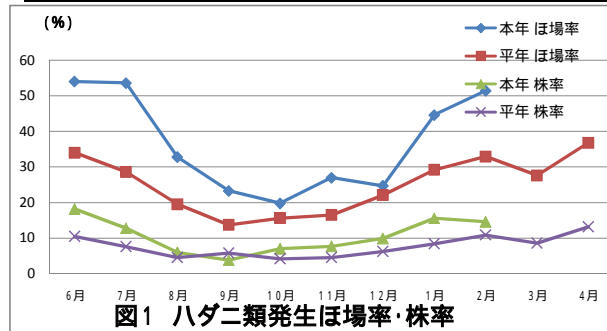


写真
上：がくに寄生したアブラムシ

右：花に寄生したアザミウマ



今月の技術情報(技術指導班) (2月)

・ハダニ類の発生が継続しており、アザミウマ類や灰色かび病の発生も見られるようになってきました。3月以降は気温が上昇し、曇雨天日が増えることが予想されることから、これら病害虫の発生が増加することが懸念されます。

・適正な温度・換気・かん水などの管理とあわせ、こまめにいちごの株を観察し、病害虫の早期発見や薬剤防除により被害軽減に努めましょう。また薬剤が葉裏にもよくかかるように古葉等の整理を行うことも重要です。

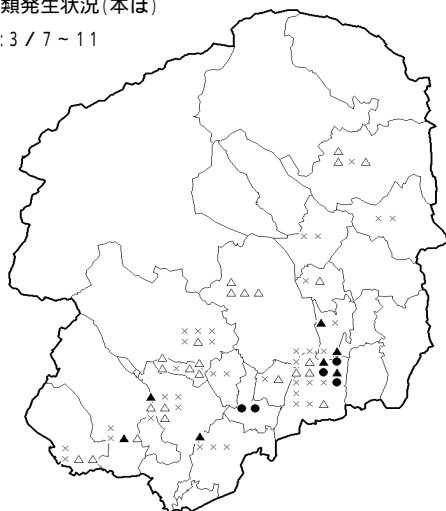
・また今後は日射も強まるため、果実温度の上昇による傷みなど、品質低下にも注意しましょう。

いちご病害虫情報第10号(3月)

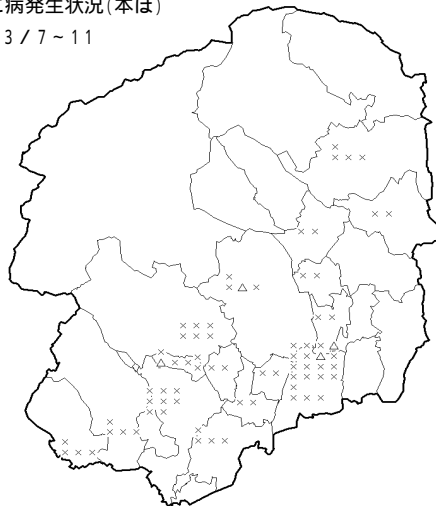
平成23年3月18日
栃木県農業環境指導センター

		単位：%									備考
		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトブ幼虫	
ほ場率	発生ほ場数	1	11	4	3	5	37	10	10	0	総調査ほ場数：74か所 総調査株数：1,850株 (調査株数：1ほ場25株) 今月の病害虫発生状況 ・うどんこ病は昨年よりやや少ない発生株率ではあるものの、発生ほ場率は増加傾向になっています。また、灰色かび病は果実への発生も見られています。 ・ハダニ類は引き続き発生の多いほ場があり、花にアザミウマ類の寄生が見られているほ場もあります。
	平均値	1.4	14.9	5.4	4.1	6.8	50.0	13.5	13.5	0.0	
	平年値	3.4	13.0	6.8	3.2	2.2	31.2	59.4	1.4	0.0	
	(平均値/平年値)×100	41.2	114.6	79.4	128.1	309.1	160.3	22.7	964.3	-	
発生程度	やや少	平年並	平年並	平年並	多	やや多	やや少	多	少		
株率	発生株数	0	12	3	3	13	311	33	29	0	
	平均値	0.0	0.6	0.2	0.2	0.7	16.8	1.8	1.6	0.0	
	平年値	0.2	1.0	0.6	0.1	0.5	10.0	18.0	0.1	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	60.0	33.3	200.0	140.0	168.0	10.0	1600.0	-	
発生程度	少	平年並	やや少	多	平年並	やや多	少	多	少		
概 評		やや少	平年並	平年並	やや多	やや多	やや多	やや少	多	少	

ハダニ類発生状況(本ほ)
調査日：3/7~11



うどんこ病発生状況(本ほ)
調査日：3/7~11



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

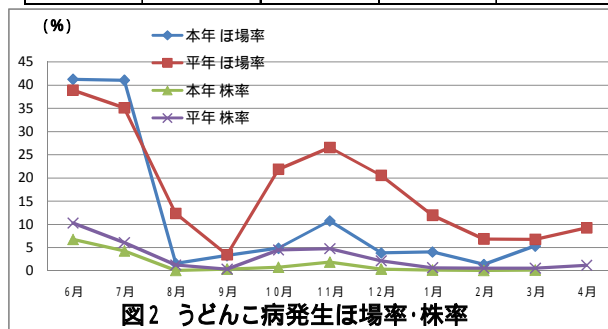
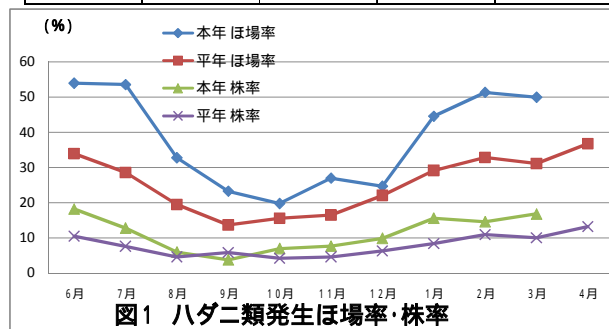


写真
上：果実の灰色かび病



右：アザミウマ被害果

今月の技術情報(技術指導班) (3月)

- ・気温の上昇や降雨の影響により、灰色かび病やハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類が増加しています。不要な下葉等を順次取り除いて風通しを良くし、薬液が葉裏にもよくかかるように薬剤防除することが重要です。
- ・今後は温湿度の上昇により果実が軟弱となるため、傷みの増加にも注意が必要です。
- ・親株は病害虫の発生がないかよく確認して定植しましょう。活着後はわき芽、下葉かきなどの管理作業とともにハダニ類などの発生にも注意が必要です。
- ・電力需要の逼迫に伴う計画停電が実施された場合は、「東北地方太平洋沖地震に伴う計画停電(輪番停電)時における技術対策について【施設園芸】」を参考に、適切な温湿度管理を行いましょう。

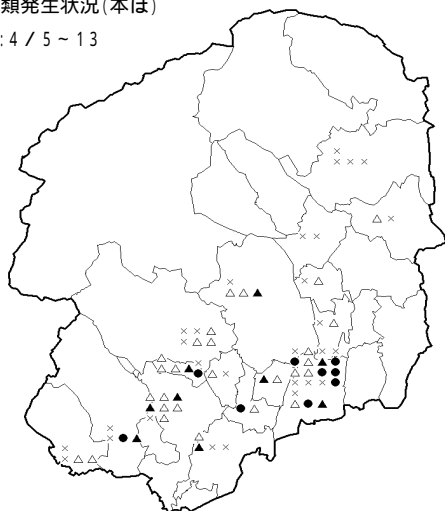
とちぎアグリネット「食と農の情報」トピックスから閲覧できます。
http://www.agrinet.pref.tochigi.lg.jp/content.cgi?category=31&content=2011_03_13_1.xml

いちご病害虫情報第11号(4月)

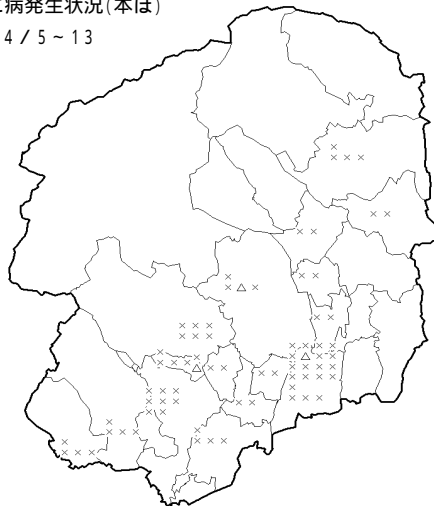
平成23年4月22日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	0	10	3	0	4	45	16	16	0	総調査ほ場数：74か所 総調査株数：1,850株 (調査株数：1ほ場25株)
	平均値	0.0	13.5	4.1	0.0	5.4	60.8	21.6	21.6	0.0	
	平年値	0.0	10.3	9.2	1.2	4.6	40.2	68.9	6.0	0.2	
	(平均値/平年値)×100	-	131.1	44.6	0.0	117.4	151.2	31.3	360.0	0.0	
株率	発生株数	0	15	5	0	15	410	39	50	0	今月の病害虫発生状況 ・うどんこ病の発生は平年よりやや少ない状況です。 ・ハダニ類の発生が増加傾向になり、アザミウマ類の発生ほ場率も増加傾向となっています。
	平均値	0.0	0.8	0.3	0.0	0.8	22.2	2.1	2.7	0.0	
	平年値	0.0	0.8	1.0	0.0	0.9	13.6	22.5	1.1	0.0	
	(平均値/平年値)×100	-	100.0	30.0	-	88.9	163.2	9.3	245.5	-	
概 評		少	平年並	やや少	少	平年並	やや多	やや少	多	少	

ハダニ類発生状況(本ほ)
調査日：4/5～13



うどんこ病発生状況(本ほ)
調査日：4/5～13



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～40	40～70	71以上
記号	×			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～10	11～25	26以上
記号	×			

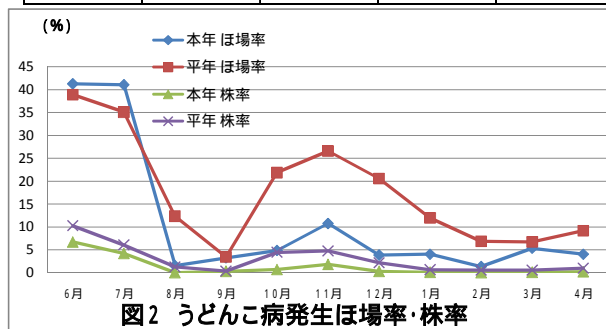
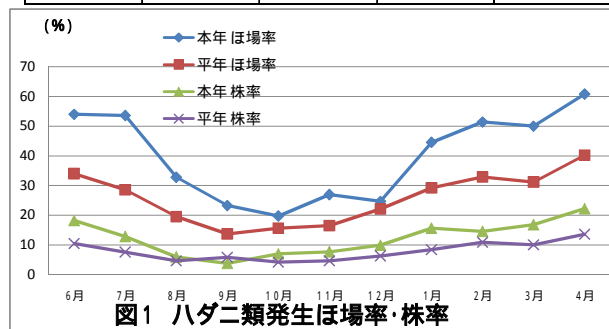


写真
上：葉の緑のハダニ類

右：花の中のアザミウマ類

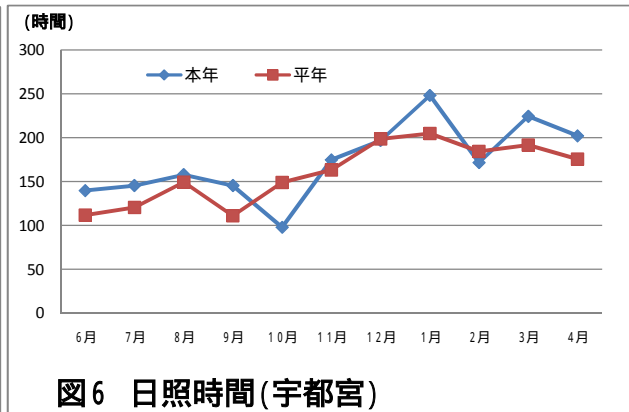
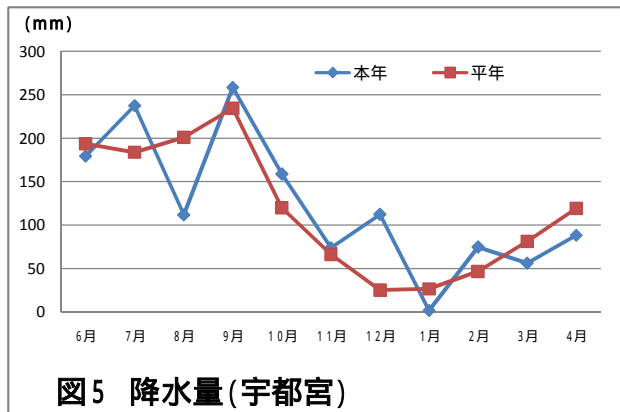
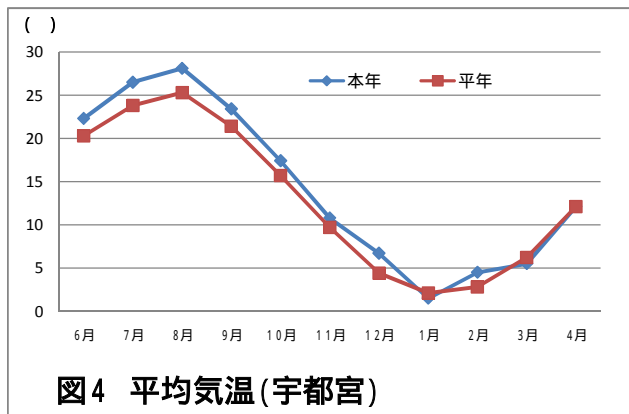
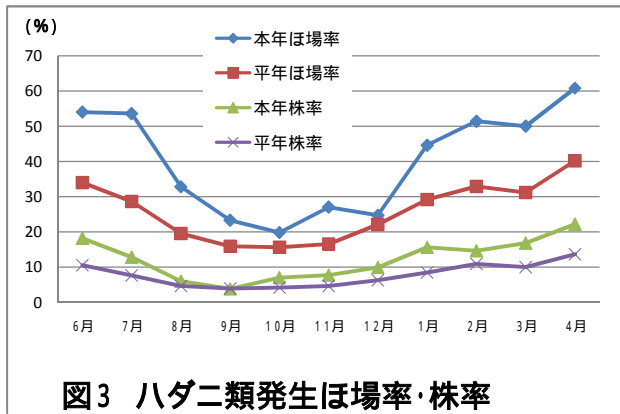
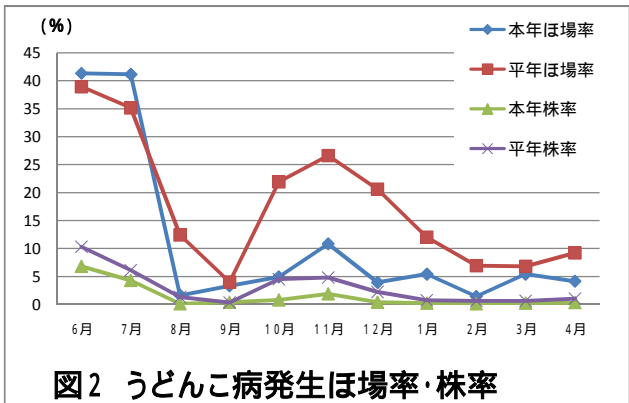
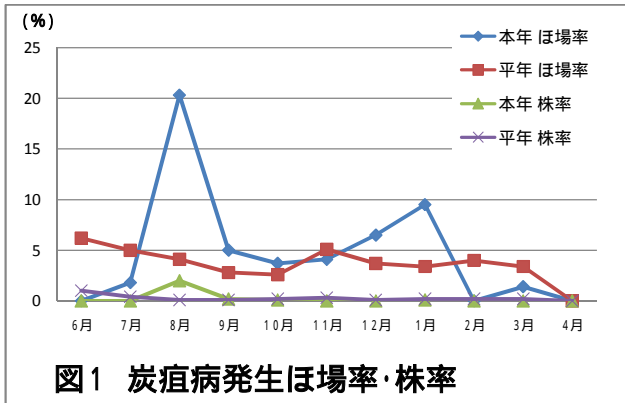


今月の技術情報(技術指導班) (4月)

・3月から4月は日照時間が多かったため、いちごの生育は概ね順調となっています。しかし、気温も高めのため、軟弱気味のほ場や果実の傷み、灰色かび病などの病害の発生が散見されます。また、害虫ではハダニ、アザミウマ類の発生が増加しています。ハウス内の適正な温湿度管理、下葉かきや葉裏にもよくかかる薬剤散布などを行い、最後まで良好な生育を保ち、品質の良いいちごの収穫に努めましょう。

・次年産の作柄安定のためには良苗の育成が重要です。まずは親株からの順調なランナー発生を促す必要がありますので、親株ハウスの温度管理やかん水管理の徹底に努めるとともに、うどんこ病やハダニ類など病害虫の発生にも注意が必要です。

〔平成23年産いちご炭疽病、うどんこ病、ハダニ類の発生経過〕



炭疽病..... 平年は、育苗期6～7月、定植後11月の発生が多い。
 本年は、特に8月の発生が非常に多かった。また、12～1月の発生が多かった。8月の高温乾燥による多かん水が多発生の要因と考えられた。

うどんこ病..... 平年は6～7月の発生が多く、次いで10～12月の発生が多い。
 本年は、9月以降11月に若干発生が増えたが、平年に比べ発生は少なかった。7～8月の高温、炭疽病防除を兼ねた適切な防除が少発生の要因と考えられた。

ハダニ類..... 平年は6～7月、1月以降の発生が多い。
 本年は、6月の育苗期以降全期間を通して平年より発生が多かった。育苗期からの発生が多く、本ぼには苗からの持込み等により発生が多くなったと考えられた。



《優良事例の紹介》

当センターでは、いちご農家35名の方にお世話になり、病害虫調査を実施しています。平成22年6月～平成23年3月の調査期間で炭疽病の発生が少なく、うどんこ病、ハダニ類の発生がなかった農家2名(小山市A氏、足利市B氏)の事例を紹介します。

優良事例

氏名 A氏(小山市)

栽培面積 25a

育苗方法 親株は高設ベンチ(ナイアガラ)、育苗は雨よけポット

定植時期 9月4～11日

炭疽病防除

苗はしめ作り(硬く締まった苗)。置き肥(プロミック錠剤1個/ポット)を使用。
 毎日かん水を実施し、8時にジョウロで霧状にしてたっぷり1回かん水。夕方はかん水しない。
 高温期はタイベック被覆により日除けを実施。
 育苗時期は炭疽病、うどんこ病に効果のある薬剤を7日に1回丁寧に散布。

うどんこ病防除

株が軟弱だと発生しやすいため、硬く締まった苗作りをしている。
 できるだけ葉かきを実施してから、薬液を葉裏に丁寧に散布している。
 定植活着10日後から10日間隔で開花まで薬剤散布。
 散布後は薬剤が効いているか確認している。
 硫黄粒剤くん煙は11月上～5月末まで実施。くん煙時間帯は19:00～21:00(2時間)+22:00～23:00(1時間)。サイド換気を開始したら3時間+2時間実施。

ハダニ類防除

育苗時期に炭疽病、うどんこ病とセットで実施。
 育苗時に7日間隔で薬剤散布実施。

農薬散布履歴

散布回数	時期	殺菌剤	殺虫剤	適用病害虫		
				炭疽病	うどんこ病	ハダニ類
1	7月	4剤	3剤			
2						
3						
4						
5	8月	3剤 5回目、8 回目散布は 同じ農薬を 使用。	4剤			
6						
7						
8						
9	9月	2剤	2剤			
10						
11	10月	3剤	3剤			
12						
13						
14	11月	1剤	1剤			
15	12月	1剤	1剤			
16	2月	1剤	1剤			
使用薬剤数		9剤	12剤			

氏名 B氏(足利市)

栽培面積 38a

育苗方法 親株は露地。雨よけポット育苗。

定植時期 9月5、6日(連棟) 9月18、19日(単棟)

炭疽病防除

乾いたら10時前にたっぷりかん水。夕方はなるべくやらない。
 仮植時に登録薬剤による浸漬処理実施。

うどんこ病防除

葉裏によくかかるように左右からていねいに散布。
 育苗～開花まで7日に1回薬剤散布。
 開花期～2月20日までは薬散なし。2月20日以降から薬剤散布実施。
 硫黄粒剤のくん煙は実施していない。

ハダニ類防除

育苗時期に炭疽病、うどんこ病とセットで実施。
 育苗時に7日間隔で薬剤散布実施。

優良事例農家の共通事項

苗はしめ作り(硬く締まった苗)。
 育苗期のかん水は、午前10時までに水の跳ね返りがないように行い、夕方はかん水しない。
 葉かき後に、かけ残しがないように丁寧に薬剤散布。
 育苗期から本ぼ定植後開花期までは、間隔を空けないで定期的に薬剤散布。
 開花期までの防除でうどんこ病、ハダニ類をほぼ完全に防除しているので、その後の発生がほとんどない。

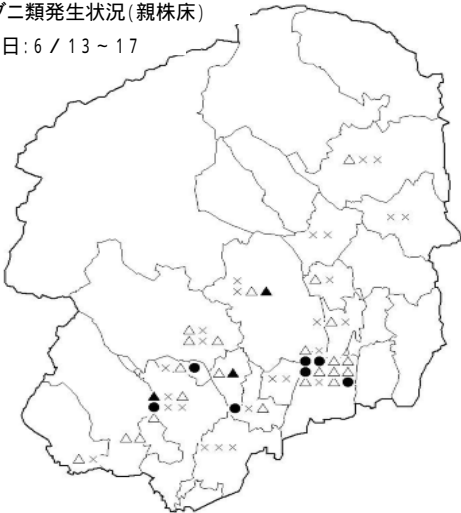
いちご病害虫情報第1号(6月)

平成23年6月24日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	0	0	36	0	28	33	19	2	0	総調査ほ場数: 59か所 総調査株数: 2,550株 (調査株数: 1ほ場25株 ただし、空中採苗方式は50株)
	平均値	0.0	0.0	61.0	0.0	47.5	55.9	32.2	3.4	0.0	
	平年値	4.2	0.9	38.5	1.0	23.6	39.4	55.3	6.1	0.3	
	(平均値/平年値)×100	0.0	0.0	158.4	0.0	201.3	141.9	58.2	55.7	0.0	
株率	発生株数	0	0	293	0	295	508	59	2	0	今月の病害虫発生状況 ・6月は親株を調査しました。 ・うどんこ病、ハダニ類は親株より子苗での発生が目立ちます。 ・アブラムシ類もランナー先端から子苗における発生が多くなっています。
	平均値	0.0	0.0	11.5	0.0	11.6	19.9	2.3	0.1	0.0	
	平年値	0.4	0.0	9.6	0.0	4.6	12.3	13.3	0.5	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	-	119.8	-	252.2	161.8	17.3	20.0	-	
概 評		少	少	やや多	少	多	やや多	やや少	やや少	少	

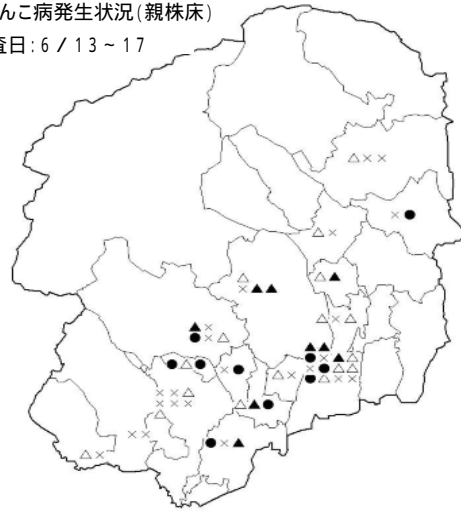
ハダニ類発生状況(親株床)

調査日: 6/13~17



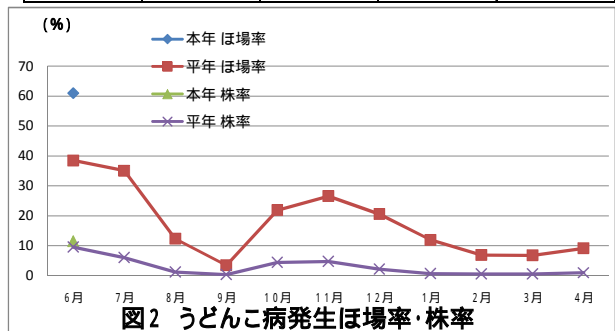
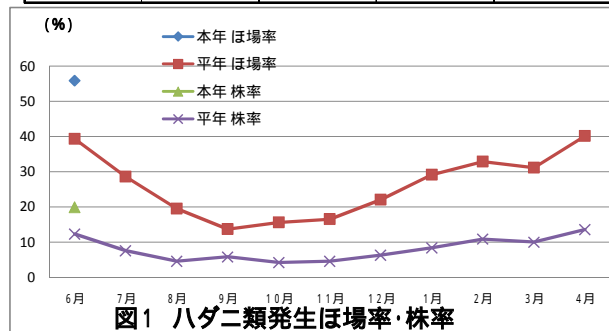
うどんこ病発生状況(親株床)

調査日: 6/13~17



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			



今月の技術情報(技術指導班) (6月)



写真 子苗に発生したうどんこ病

・現在、親株床でハダニ類、うどんこ病の発生が見られます。また、アブラムシ類の発生も平年より多くなっています。防除の際は葉裏にも薬剤がよくかかるよう、丁寧な散布を心がけると共に、下葉かき等の管理を適切に行いましょう。
 ・昨年は一部の親株床で炭疽病の発生が見られ、育苗期間中に被害が増加しました。今後は気温の上昇と共に発生が増加する恐れがあります。予防散布を徹底するとともに、泥はねさせないかん水の実施や、ハウス内への風雨の吹き込み防止など、普段から炭疽病を意識した管理を行いましょう。
 ・現在、ランナーの発生は5、6月の天候不順の影響によりやや遅れています。親株床ではこまめなかん水や子苗の誘引等により、採苗時には大きさの揃った良苗を多めに確保出来るようにしましょう。

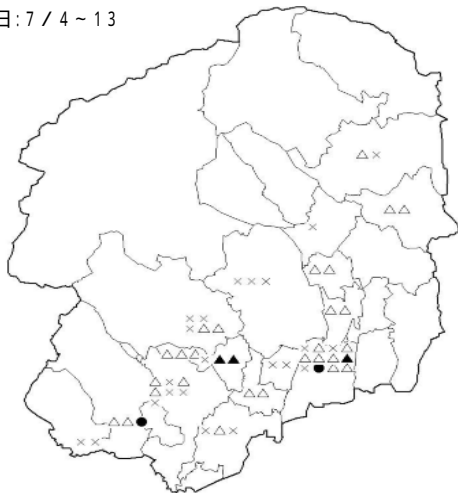
いちご病害虫情報第2号(7月)

平成23年7月22日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	2	0	17	0	13	32	10	3	1	総調査ほ場数: 54か所 総調査株数: 2,325株 (調査株数: 1ほ場25株) ただし、空中採苗方式は50株)
	平均値	3.7	0.0	31.5	0.0	24.1	59.3	18.5	5.6	1.9	
	平年値	3.7	1.2	36.0	0.3	17.3	34.0	46.2	4.2	0.3	
	(平均値/平年値)×100	100.0	0.0	87.5	0.0	139.3	174.4	40.0	133.3	633.3	
株率	発生株数	0	0	97	0	96	322	20	10	2	今月の病害虫発生状況 ・7月は親株床あるいは育苗床を調査しました。 ・うどんこ病は、高温の影響もあり徐々に目立たなくなりつつありますが、ハダニ類はあいかわらず多い傾向です。 ・すでに一部ほ場では炭疽病が発生しています。
	平均値	0.0	0.0	4.2	0.0	4.1	13.8	0.9	0.4	0.1	
	平年値	0.3	0.0	6.0	0.0	2.4	8.8	8.3	0.3	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	-	70.0	-	170.8	156.8	10.8	133.3	-	
概 評		やや少	少	平年並	少	平年並	やや多	やや少	平年並	平年並	

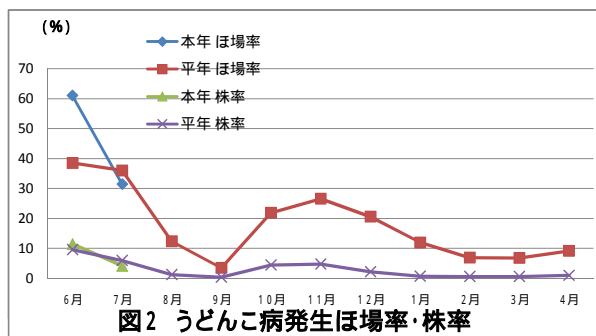
ハダニ発生状況(親株床・育苗床)

調査日: 7/4~13

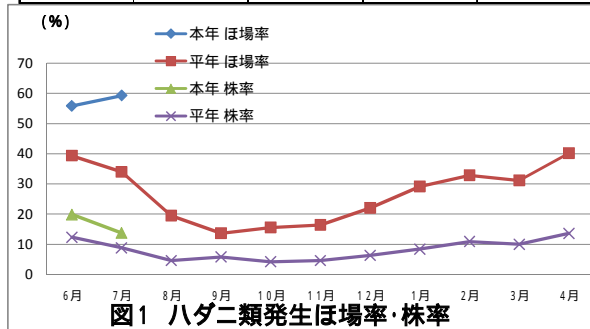


うどんこ病発生状況(親株床・育苗床)

調査日: 7/4~13

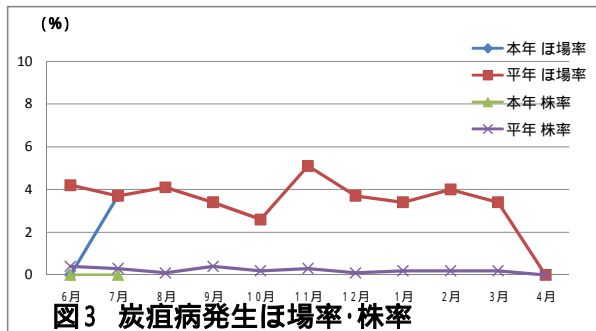


程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			



炭疽病発生状況(親株床・育苗床)

調査日: 7/4~13



今月の技術情報(技術指導班) (7月)



写真 ランナーに発生した炭疽病

・現在、苗床の一部で炭疽病の発生が見られます。炭疽病は高温になると発生が増加しますが、昨年は梅雨明け後に高温となり、炭疽病が多発しました。本年は6月下旬から気温が上昇しており、今後も高温が続くと、炭疽病による苗床での被害拡大が予想され、注意が必要です。

・炭疽病は発病してからの防除は困難なので、予防散布を徹底しましょう。病菌は水滴の飛散等で伝染するので、できるだけ水の跳ね返りがないようなかん水を行いましょう。

また、降雨時の育苗ハウス内への風雨の吹き込みを防ぐなど、普段の管理にも注意が必要です。

・ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等の発生も見られ、特にハダニ類については、発生ほ場が増加しつつあります。今のうちに徹底した防除を行い、本圃に持ち込まないようにしましょう。

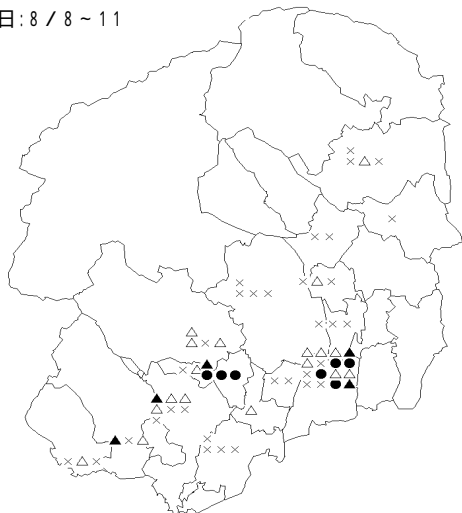
なお、薬剤散布は葉裏へも薬液がかかるよう、ていねいに散布し、防除効果が高まるようにしましょう。

いちご病害虫情報第3号(8月)

平成23年8月19日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉斑病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	11	0	6	0	24	30	7	0	2	総調査ほ場数: 63か所 総調査株数: 1,725株 (調査株数: 1ほ場25株) ただし、一部のほ場は50株)
	平均値	17.5	0.0	9.5	0.0	38.1	47.6	11.1	0.0	3.2	
	平年値	4.3	0.0	12.5	1.3	15.4	22.8	13.3	1.5	2.3	
	(平均値/平年値)×100	407.0	-	76.0	0.0	247.4	208.8	83.5	0.0	139.1	
株率	発生株数	8	0	13	0	110	248	7	0	3	今月の病害虫発生状況 ・8月は育苗床を調査しました。 ・炭疽病、アブラムシ類、ハダニ類は多い傾向です。 ・一部ほ場でハスモンヨトウの被害が見られます。
	平均値	0.5	0.0	0.8	0.0	6.4	14.4	0.4	0.0	0.2	
	平年値	0.3	0.0	1.3	0.0	3.0	5.2	0.8	0.1	0.1	
	(平均値/平年値)×100	166.7	-	61.5	-	213.3	276.9	50.0	0.0	200.0	
概評		多	少	平年並	少	多	多	平年並	少	やや多	

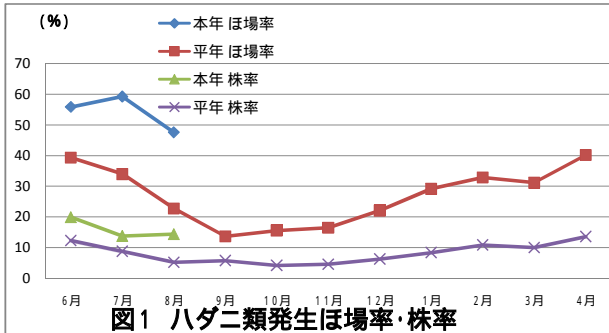
ハダニ類発生状況(育苗床)
調査日: 8/8~11



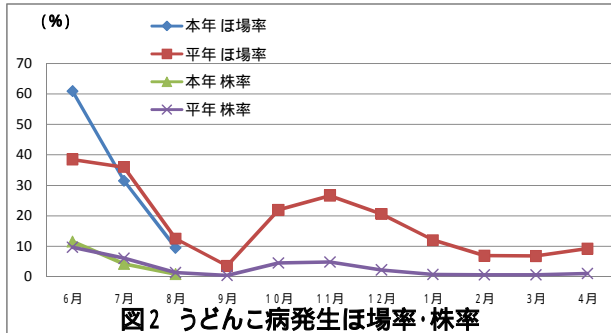
うどんこ病発生状況(育苗床)
調査日: 8/8~11



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			



今月の病害虫防除対策(技術指導班) (8月)



写真 葉に発生した炭疽病

・いちごの育苗床では8月に入り、炭疽病の発生が増加しています。また、アブラムシ類、ダニ類の発生も多く、今後はハスモンヨトウにも注意が必要です。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本ばに持ち込まないよう育苗床のうちにしっかり防除して下さい。

・炭疽病は発病してからの防除は困難です。そのため発生前から定期的に予防散布を行い、水の跳ね返りがないかん水や、鉢間を広げて風通しを良くするなど、発生を予防する管理を行いましょう。

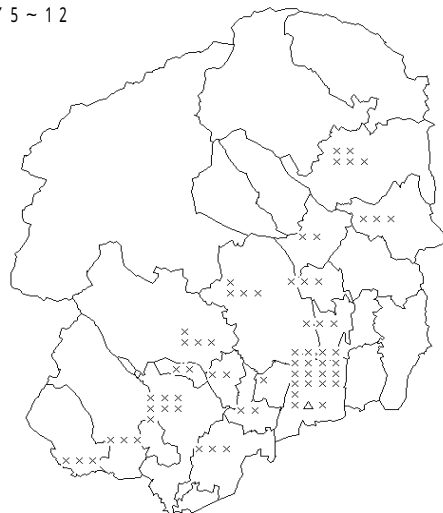
・育苗期の後半は苗の揃いを良くし、生育を充実させるため、日照に応じた遮光の調節や、育苗ポットの並べ替え、かん水量の調整などの管理を行ってください。また、苗の揃いが悪いと花芽分化のばらつきの原因にもなりますので、注意が必要です。

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	22	0	1	0	7	15	1	0	3	総調査ほ場数：67か所 総調査株数：1,925株 (調査株数：1ほ場25株) ただし、一部のほ場は50株)
	平均値	32.8	0.0	1.5	0.0	10.4	22.4	1.5	0.0	4.5	
	平年値	3.3	0.0	4.3	0.4	5.4	18.3	10.2	1.9	13.6	
	(平均値/平年値)×100	993.9	-	34.9	0.0	192.6	122.4	14.7	0.0	33.1	
株率	発生株数	53	0	1	0	26	62	1	0	15	今月の病害虫発生状況 ・9月は育苗床・本ばを調査しました。 ・炭疽病、アブラムシ類が多く発生しています。 ・ハダニ類、ハスモンヨトウの発生も継続しています。
	平均値	2.8	0.0	0.1	0.0	1.4	3.2	0.1	0.0	0.8	
	平年値	0.2	0.0	0.3	0.0	0.8	4.2	0.6	0.1	1.0	
	(平均値/平年値)×100	1400.0	-	33.3	-	175.0	76.2	16.7	0.0	80.0	
概 評		多	少	やや少	少	多	平年並	少	少	やや少	

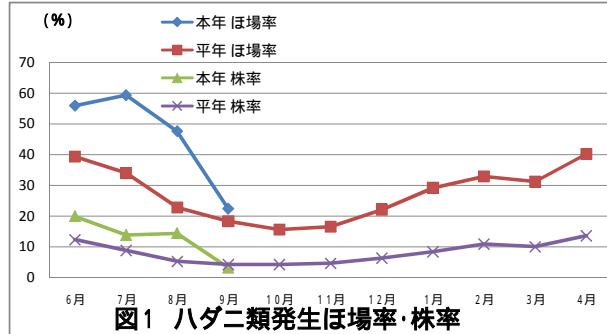
ハダニ類発生状況(育苗床・本ば)
調査日：9/5~12



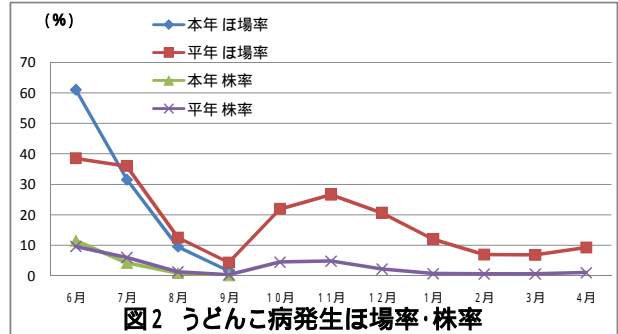
うどんこ病発生状況(育苗床・本ば)
調査日：9/5~12



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			



今月の病害虫防除対策(技術指導班) (9月)



写真 感染葉に現れた炭疽病の斑点状病斑

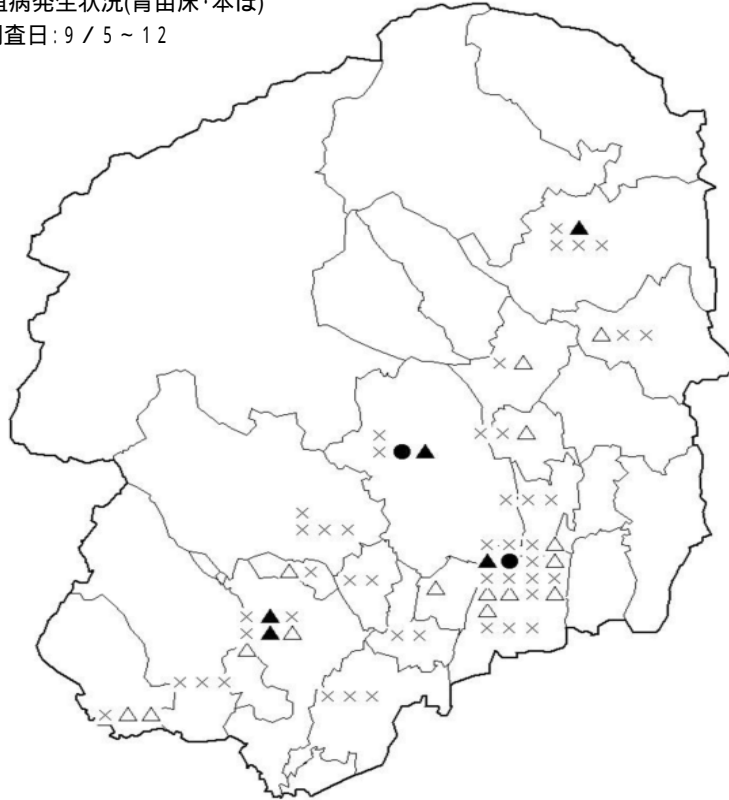
・いちごの定植は概ね順調に進んでいますが、育苗期に炭疽病による被害が見られ、定植後も発生することが懸念されます。またハダニ類、アブラムシ類の発生も継続しています。今後、気温が高めで推移すると、これらの病害虫の被害が拡大する可能性が高いため、早めの防除が必要です。

・近年は秋期に高温となる場合が多くなっています。積極的な換気によりハウス内の気温上昇を抑制し、地上部の徒長を防ぎましょう。また、活着後のかん水は少量多回数で行うとともに、マルチ張りは出来るだけ遅らせ、畦内部への根張りを促進して下さい。

イチゴ炭疽病が9月も引き続き全県的に多発しています。

炭疽病発生状況(育苗床・本ほ)

調査日: 9/5~12



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	散見、1~10	11~25	26以上
記号	x			

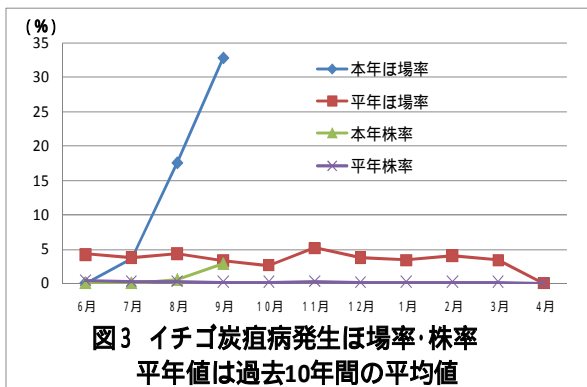


表1 炭疽病発生ほ場率・株率

	ほ場率(%)	株率(%)
H23.9	32.8	2.8
H22.9	5.0	0.2
H21.9	1.8	0.1
H20.9	1.4	0.1
H19.9	2.4	0.1
H18.9	3.1	0.1
H17.9	4.7	0.3
H16.9	1.6	0.0
H15.9	0.0	0.0
H14.9	2.8	0.0
H13.9	10.6	0.6

9月上中旬の巡回調査の結果、発生ほ場率は32.8%(平年3.3%)、
 発病株率は2.8%(平年0.2%)で、過去10年間で最も高い値である
 (図3、表1)。
 全県的に発生しており、多・甚発生ほ場も2ほ場確認された(マップ)。



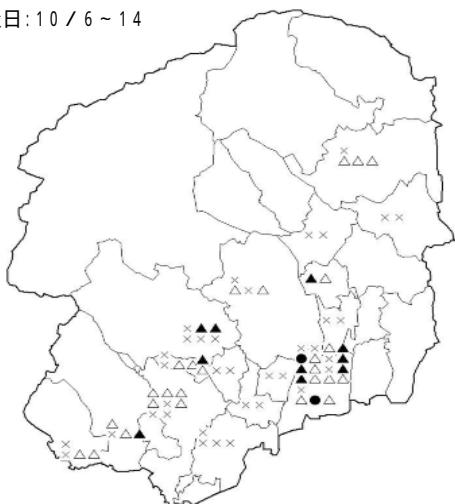
多発ほ場では、感染源となる発病株の早期処分が徹底されていないと考えられる。

いちご病害虫情報第5号(10月)

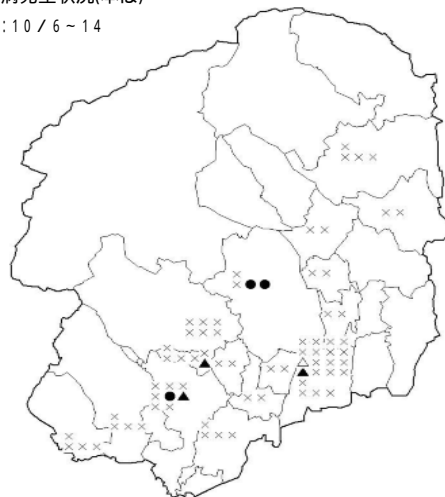
平成23年10月20日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	5	0	7	5	9	38	18	12	5	総調査ほ場数: 74か所 総調査株数: 1,850株 (調査株数: 1ほ場25株) 今月の病害虫発生状況 ・萎黄病、ハダニ類、アザミウマ類が多く発生しています。 ・うどんこ病は全体的にはやや少ない状況ですが、一部で多発ほ場もみられます。
	平均値	6.8	0.0	9.5	6.8	12.2	51.4	24.3	16.2	6.8	
	平年値	2.7	0.0	20.6	1.7	10.4	17.0	22.3	1.2	22.8	
	(平均値/平年値)×100	251.9	-	46.1	400.0	117.3	302.4	109.0	1350.0	29.8	
株率	発生株数	3	0	42	3	16	255	21	28	4	
	平均値	0.2	0.0	2.3	0.2	0.9	13.8	1.1	1.5	0.2	
	平年値	0.2	0.0	4.2	0.1	1.3	4.9	1.8	0.1	2.1	
	(平均値/平年値)×100	100.0	-	54.8	200.0	69.2	281.6	61.1	1500.0	9.5	
概評		やや多	少	やや少	多	平年並	多	平年並	多	やや少	

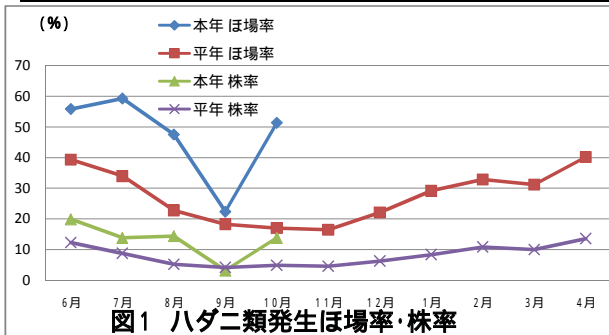
ハダニ類発生状況(本ほ)
調査日: 10/6~14



うどんこ病発生状況(本ほ)
調査日: 10/6~14



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	×			



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	×			

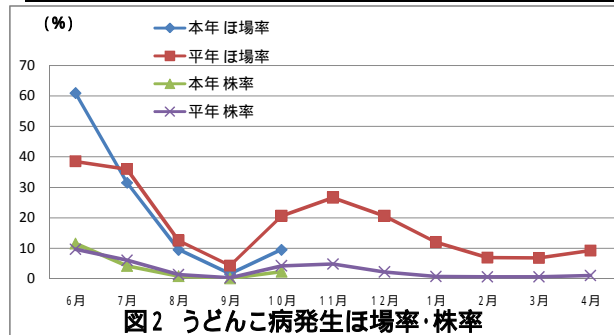


写真1 葉裏に寄生しているナミハダニ



写真2 葉裏に発病したうどんこ病

今月の病害虫防除対策(技術指導班) (10月)

- ・9月下旬からの気温低下により、生育がやや遅れているほ場も見られますが、定植後は多日照で推移したため、全般的には順調な生育となっています。
- ・萎黄病の発生が見られ、発生ほ場率は、ここ数年の中で高い状況になっています(表1、図3)。本圃で萎黄病株を見つけた場合は、直ちに抜き取り、処分する必要があります。
- ・害虫類ではハダニ類やアザミウマ類の発生が多めです。できるだけ収穫開始前に防除し、発生を抑えることが重要です。
- ・本年は秋期の寒暖の差が大きく、日中の高温や、急な気温の低下が見られます。今後は保温開始の時期を迎えますが、気候の変化に合わせて、常に適切な管理を行うことが重要です。

イチゴ萎黄病が県中南部の一部ほ場で発生しています。

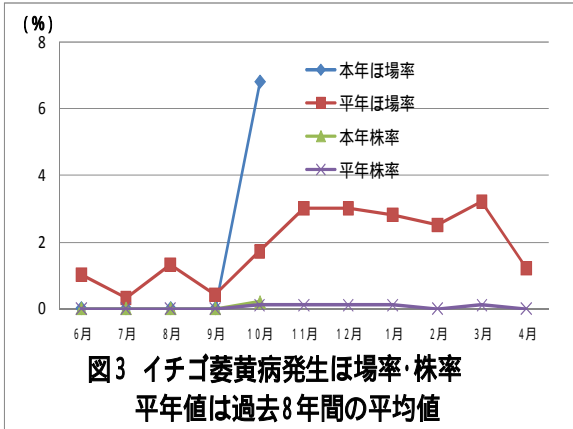
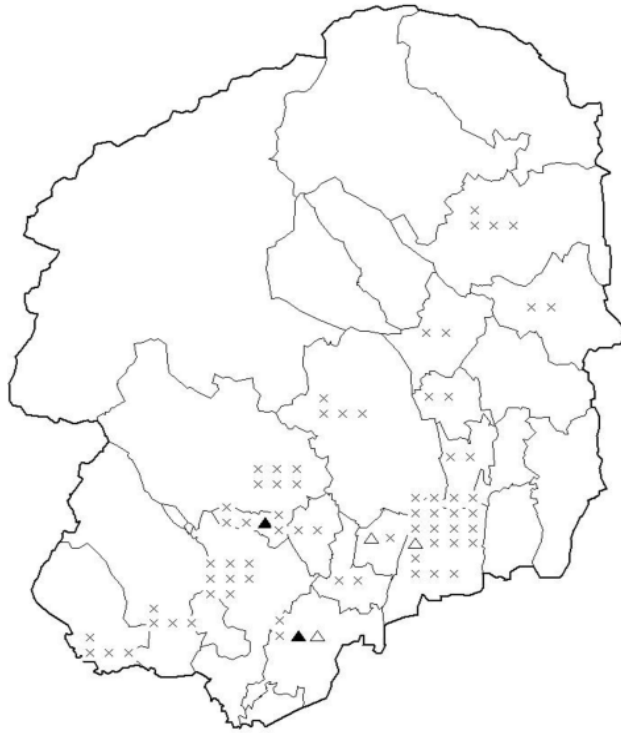


表1 萎黄病発生ほ場率・株率

	ほ場率(%)	株率(%)
H23.10	6.8	0.2
H22.10	1.2	0.1
H21.10	0.0	0.0
H20.10	1.1	0.0
H19.10	1.4	0.2
H18.10	0.0	0.0
H17.10	7.2	0.1
H16.10	1.2	0.0
H15.10	1.2	0.0
H14.10	-	-
H13.10	-	-

萎黄病発生状況(本ほ)

調査日: 10 / 6 ~ 14



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	散見	1~10	11以上
記号	x			



写真3 小葉の奇形がみられる発病株



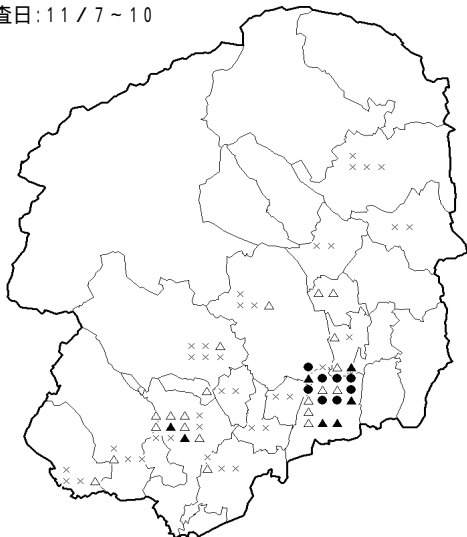
写真4 小葉の奇形及び葉枯れがみられる発病株

いちご病害虫情報第6号(11月)

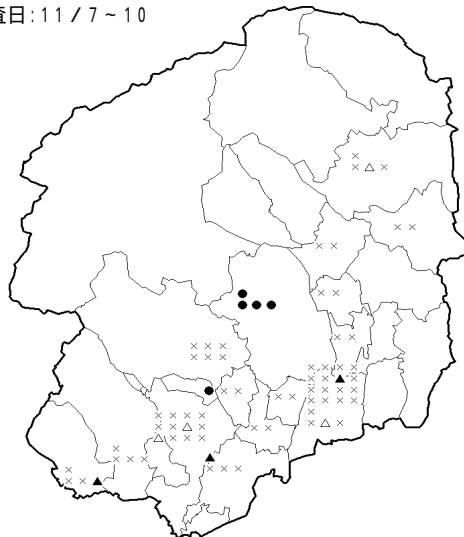
平成23年11月18日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	8	0	12	11	22	36	18	11	8	16	総調査ほ場数: 73か所 (アザミウマ類(花)調査ほ場数: 23か所) 総調査株数: 1,825株 (アザミウマ類(花)総調査花数: 2,300花) (調査株数: 1ほ場25株(アザミウマ類(花)調査花数: 1ほ場100花))
	平均値	11.0	0.0	16.4	15.1	30.1	49.3	24.7	15.1	11.0	69.6	
	平年値	4.9	0.0	26.4	3.7	10.4	19.1	33.4	8.9	0.9	11.5	
	(平均値/平年値)×100	224.5	-	62.1	408.1	289.4	258.1	74.0	169.7	1222.2	605.2	
株率	発生株数	4	0	68	7	70	344	30	20	12	119	今月の病害虫発生状況 ・ハダニ類(写真1)が多発しており、ハダニ類の吐く糸で葉が覆われた株が見られるほ場もありました。 ・アザミウマ類による被害果(写真2)が発生しているほ場が見られました。 ・うどんこ病は平年並の発生ですが、果こうやがく、果実に発生しているほ場も見られました。
	平均値	0.2	0.0	3.7	0.4	3.8	18.8	1.6	1.1	0.7	5.2	
	平年値	0.3	0.0	4.8	0.1	1.8	5.3	3.7	0.6	0.1	0.9	
	(平均値/平年値)×100	66.7	-	77.1	400.0	211.1	354.7	43.2	183.3	700.0	577.8	
発生程度	平年並	少	平年並	多	多	多	平年並	やや少	多	多		
概評		やや多	少	平年並	多	多	多	平年並	やや多	多		

ハダニ類発生状況(本ほ)
調査日: 11/7~10



うどんこ病発生状況(本ほ)
調査日: 11/7~10



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

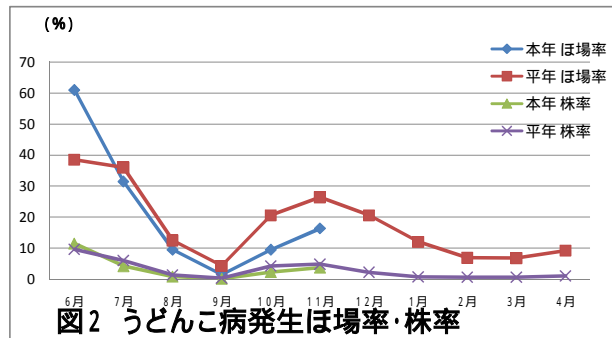
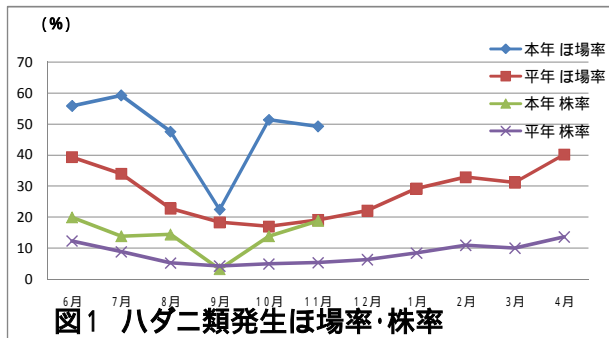


写真1 葉裏に寄生しているハダニ類と卵(矢印が卵)



写真2 アザミウマ類の加害による被害果

今月の技術情報(技術指導班) (11月)

・本年のいちごの生育は、秋期の多日照により全般に良好で、出荷も順調です。今後は晴天時のハウス内温度の急激な上昇や、夜温の確保、過剰な灌水による多湿に注意して適切な管理を行って下さい。

・先月に引き続き、ハダニ類、アザミウマ類の発生が多めです。また、アブラムシ類の発生も増加傾向にあります。これらの防除は収穫が本格化する前に徹底して行い、被害の拡大を防いで下さい。また、わき芽やランナー、古葉のかき取りは早めに行い、病害虫が多発しにくい環境作りにも努めましょう。

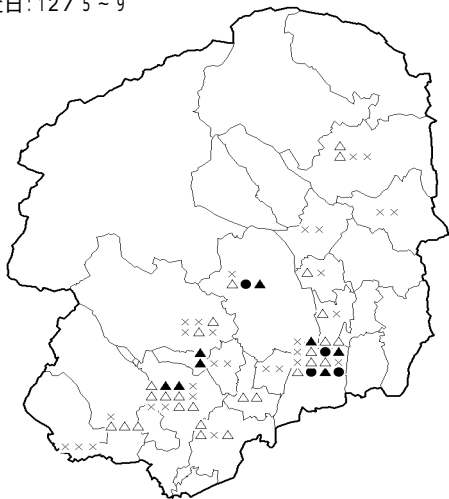
・炭疽病、萎黄病は、被害株を見つけ次第抜き取り、ほ場外で適切に処分して下さい。

いちご病害虫情報第7号(12月)

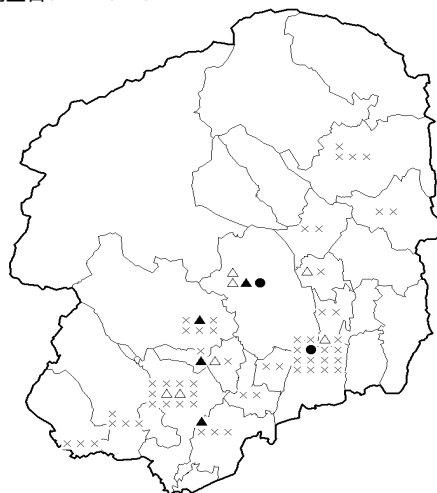
平成23年12月16日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	アザミウマ類(花)	備考
ほ場率	発生ほ場数	5	2	13	9	8	39	8	4	5	6	総調査ほ場数：69か所 (アザミウマ類(花)調査ほ場数：26か所) 総調査株数：1,725株 (アザミウマ類(花)総調査花数：2,600花) (調査株数：1ほ場25株(アザミウマ類(花)調査花数：1ほ場100花)) アザミウマ類(花)の平均値は過去1年分のみ 今月の病害虫発生状況 ・灰色かび病(写真1)が発生しているほ場が見られました。 ・うどんこ病(写真2)の発生は昨年並みですが、先月より増加しています。 ・ハダニ類の多発が続いています。 ・アザミウマ類による被害果が発生しているほ場が見られました。
	平均値	7.2	2.9	18.8	13.0	11.6	56.5	11.6	5.8	7.2	23.1	
	標準偏差	3.8	1.7	19.7	3.7	7.7	24.4	42.6	3.9	0.5	19.2	
	(平均値/標準偏差)×100	189.5	170.6	95.4	351.4	150.6	231.6	27.2	148.7	1440.0	120.3	
株率	発生株数	0	4	40	6	50	293	11	2	4	14	
	平均値	0.0	0.2	2.3	0.3	2.9	17.0	0.6	0.1	0.2	0.5	
	標準偏差	0.1	0.1	2.1	0.1	1.2	7.3	7.1	0.2	0.0	0.7	
	(平均値/標準偏差)×100	0.0	200.0	109.5	300.0	241.7	232.9	8.5	50.0	-	71.4	
概 評		やや多	やや多	昨年並	多	やや多	多	やや少	昨年並	やや多		

ハダニ類発生状況(本ほ)
調査日：12/5~9



うどんこ病発生状況(本ほ)
調査日：12/5~9



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

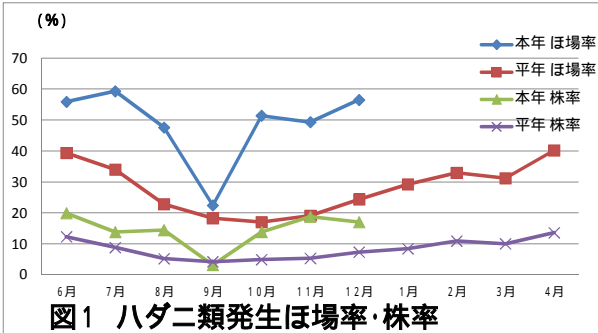


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

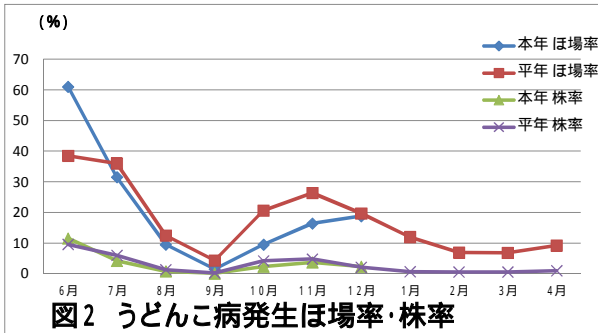


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率



写真1 灰色かび病



写真2 うどんこ病

今月の技術情報(技術指導班) (12月)

・10月上旬から気温が高めで推移したため、いちごの生育がやや軟弱となっており、今後、灰色かび病などの病害発生に注意する必要があります。

・害虫の発生は全般に減少傾向にありますが、ハダニ類の発生は定植後から継続しています。収穫盛期になると管理作業が遅れがちになりますので、日頃からの観察と、早めの防除対策を心掛けましょう。

・今後は厳寒期に入り、換気量が減少します。そのため雨や雪があるとハウス内の湿度が高まり、病害や果実の傷みが発生しやすくなります。対策としては、適正な温度管理や換気、こまめなかん水等を徹底しましょう。また、病害虫が増えにくい環境を作るため、わき芽や下葉かきなどの作業もあわせて行うことが重要です。